

1 1. 鳥取県 鳥取県立図書館

図書館を活用した「夢実現」大賞選考事業（平成20年度地域の図書館サービス充実支援事業）

(1) 事業の趣旨・概要

本来、図書館の活用法は多様であり、多くの人々が様々な分野で図書館の機能を活用して、個人や企業の課題解決をしていると推測される。そこで、趣味娯楽、文学書の利用というイメージが強い図書館の利用方法の幅を広げるため、利用者の多様な活用法とそれによって得られた成果を収集・発信することにより、図書館利用のイメージの転換を図るとともに、個人や地域の課題解決を目的とする利用者の掘り起こしを行い、地域の活性化に資する。

※委託先・図書館の概要（平成20年3月末現在）

委託先	自治体・機関名	鳥取県立図書館
	所在地	〒680-0017 鳥取県鳥取市尚徳町101
	連絡先	TEL 0857-26-8155
		FAX 0857-22-2996
URL http://www.library.pref.tottori.jp/		
図書館の概要（平成20年3月末現在）	職員数	40人（うち司書31人）（非常勤含む）
	開館時間	火～金 9:00～18:30 土・日・月 9:00～17:00
	年間開館日数	326日
	蔵書数	879,874冊（視聴覚資料含む）
	利用登録者数	102,414人
	年間利用者数	（入館者）330,872人 （貸出利用者）111,190人
	年間貸出冊数	（個人）358,854冊
	運営状況	通常の図書館業務を5課の職員が行っている。特にビジネス支援、健康医療・法情報などのくらし支援、タイアップ事業、市町村立図書館・大学高校図書館への配本サービスに力を入れている。

※地域の現況・特色

鳥取県は中国地方東北部に位置する日本海と中国山地の自然に恵まれた県であり、県庁所在地は鳥取市である。日本の都道府県の中では人口が一番少なく、また市町村数も4市14町1村と少ない。

現在の鳥取県立図書館は1990年に鳥取市中心部に新築移転した。地域間格差解消を目的とした即日宅配システム（県内すべての市町村立図書館、大学・高校図書館に2日以内にリクエスト本が届くシステム）の導入や、横断検索システムの整備等にいち早く着手し、厳しい財政状況の中で1997年以降1億円以上の図書購入費を確保し、県内全域を対象とするサービスの充実を図ってきた。また、全県立高校に常勤の司書を配置し、高校に対する宅配サービス・巡回相談を実施し、市町村立図書館、高校図書館を巻き込んだビジネス支援事業に取り組んでいる。

人口：59万4千人

(2) 事業の実施体制

事業の実施にあたっては、以下の2つの委員会を組織した

①鳥取県の21世紀の図書館を創る会

館内の5課と横断的に組織された「ビジネス支援委員会」のメンバーを中心に組織した。

<委員構成>

県立図書館職員5名（館長、副館長、支援協力課長 他職員2名）、県教育委員会事務局家庭・地域教育課
副主幹 計6名

<主な役割>

事業全般に関する検討

②選考委員会

<委員構成>

(社)日本図書館協会理事・事務局次長、県図書館協会会長、県教育委員会教育長、県立図書館長
計4名

<主な役割>

「夢実現」大賞の選考

(3) 事業体系

鳥取県立図書館が策定した「鳥取県立図書館の目指す図書館像」の6つの柱の1つである「仕事と暮らしに役立つ図書館」を具体化するための事業である「暮らしに役立つ図書館推進事業」が県の重点施策になり、仕事に役立つ、生活の困りごとに役立つ、医療・健康に役立つ、ことを目的とした事業を展開している。

図書館を活用した「夢実現」大賞は、この「暮らしに役立つ図書館推進事業」の広報部門を補完する事業として実施した。

①図書館を活用した「夢実現」大賞	i 図書館を活用した「夢実現」大賞を発想した背景 ii 「夢実現」大賞の内容 iii PR・広報の仕方 iv 応募状況 v 審査会 vi 今後の普及方法
②その他の関連事業	i 団塊の世代「夢実現」応援講座 ii ビジネス支援コーナー iii 法情報検索マップ

<参考：鳥取県立図書館の施策体系、鳥取県立図書館の目指す図書館像6つの柱>

①人づくりを支える図書館	
②情報拠点としての図書館	
③仕事とくらしに役立つ図書館	<ul style="list-style-type: none"> i 県民のための健康情報サービス委員会・法情報サービス委員会の設置と運営 ii くらしや生活に役立つ情報・資料の集積と発信—商用データベースの強化、専門雑誌の充実 iii セミナー・講座等の開催による各分野の専門機関とのタイアップ事業の実施（広報に関する事業） <ul style="list-style-type: none"> ア. 図書館を活用した「夢実現」大賞 ★当委託事業 イ. 生活の困りごと解決支援講座 ウ. 団塊の世代「夢実現」応援講座 エ. 健康情報サービスシンポジウムの開催 iv スキルアップのための専門分野別研修受講
④地域文化を大切にする図書館	
⑤図書館のための図書館	
⑥県民サービスを創造する図書館	

(4) 当事業に取り組んだ背景・経緯

鳥取県立図書館では、平成18年3月に「鳥取県立図書館の目指す図書館像」を策定し、1. 人づくりを支える図書館、2. 情報拠点としての図書館、3. 仕事とくらしに役立つ図書館、4. 地域文化を大切にする図書館、5. 図書館のための図書館、6. 県民サービスを創造する図書館の6つの柱を掲げた。その中の「仕事とくらしに役立つ図書館」を具体化するための事業である「くらしに役立つ図書館推進事業」が県立図書館の重点施策であり、「仕事に役立つ」「生活の困りごとに対応する」「医療・健康に役立つ」事業を展開している。

地域経済の発展に図書館が貢献しようとする施策として、平成16年度にビジネス支援事業がスタートした。外部委員として、商工会議所、(財)県産業振興機構、県産業技術センター、県商工労働部、県農林水産部等から委員を委嘱し、ビジネス支援委員会を立ち上げた。外部委員の委嘱は平成19年度まで継続して行われ、この間、関連機関との人脈づくり、具体的な事業案の提案等で実績を残した。外部委員やその関連機関との恒常的な協力関係が構築できたことから、平成20年度より館内の職員だけでビジネス支援委員会を組織している。

本委託事業の実行委員会である「鳥取県の21世紀の図書館を創る会」は、ビジネス支援委員会で行ってきた流れを受け継ぐものであり、『図書館を活用した「夢実現」大賞』は、「くらしに役立つ図書館推進事業」の広報部門を補完する事業と想定した。本事業を通して、図書館の資料・機能・活用方法を広く県民に広報し、県立図書館や市町村立図書館の社会の中で果たす役割が理解され、多様な活用法が促進されることを意図した。

(5) 各事業の内容と現在までの取り組み状況

① 図書館を活用した「夢実現」大賞

i 図書館を活用した「夢実現」大賞を発想した背景

県立図書館では、多様な機関と連携して、「ビジネス支援・行政支援・タイアップ事業」を展開し、その事業の中で、図書館の活用法を説明し、テーマに関連した図書の展示を行っている。図書館がくらしや仕事にどのように役に立つかを説明する際、具体例を提示するほうがわかりやすく、説得力があるため、その参考事例を増やすことを考えた。また、全国の様々な地域の図書館利用者から公募することにより、図書館職員の予想を超えた活用法の発掘も期待した。

<平成19年度ビジネス支援・行政支援・タイアップ事業での図書館説明・関連図書展示の実績>

※ () 内はタイアップ先

経営革新支援アドバイザー出前起業相談会（鳥取商工会議所等）、特許情報相談会（発明協会鳥取県支部）、就農相談会（県農業担い手育成基金）、知的財産セミナー（県商工労働部産業開発課）、特許等無料相談会（特許庁・県発明協会）、全国一斉特許相談会（日本弁理士会）、創業塾（鳥取商工会議所・日本商工会議所）、マーケティング研修会（県商工労働部）、めっき技術講習会（県産業技術センター）、経営革新セミナー（県産業振興機構）、再就職準備セミナー（21世紀職業財団）、就職支援ガイダンス（厚生労働省）特別支援学級新担任研修・主任者研修（県教育センター）、放送大学鳥取学習センター公開講座（放送大学）、住民調査の企画・設計等スキル向上研修（県企画部統計課）、県林業試験場パネル展（県林業試験場）、日本の農業についてのパネル展（中国四国農政局鳥取農政事務所） 他

【工夫のポイント】

「ビジネス支援・行政支援・タイアップ事業」の際には、図書館職員がセミナー等の会場内に「図書展示コーナー」を設置し、その事業に関連する図書をテーブル上に並べその場で閲覧できるようにするとともに、関連図書リストを配布する。また、その場で貸出カードの発行、図書の貸出し、資料コピーにも応じ、“仕事に役立つ図書館の活用法”をリアルにPRしている。全体に説明する時間枠があれば、参加者に図書館の利用についての説明も行っている。



会場内に設置された図書展示コーナー



めっき技術研修会で図書館利用の説明

ii 「夢実現」大賞の内容

ア. 目的

図書館の機能を活用して、個人や企業の課題を解決した事例や、夢を実現した事例を収集し、特にユニークな事例は最優秀賞・優秀賞として表彰する。また、最優秀賞・優秀賞は成功までのストーリーを漫画にして提供し、漫画化した事例は全国に向けて情報発信する。そのことにより個人や地域の課題解決を目的とした図書館利用者の増加を図るほか、受賞者自身の会社等の販売ツールとして活用してもらう。

イ. 応募条件

- 図書館の資料相談を利用して得た情報が商品開発や技術開発、起業・創業につながった事例。
- 図書館の継続的な利用によって得た情報が商品開発や技術開発、起業・創業につながった事例。

ウ. 賞及び副賞

最優秀賞1事例、優秀賞2事例

⇒成功までのストーリーをプロの漫画家による B4 サイズの漫画にして提供し、その漫画は転載利用可とする。

【工夫のポイント】

★入賞の副賞をその事例の成功までの道のりを漫画で表した B4 サイズ 1 枚のサクセスストーリーにした。

○入賞者にとっては、成功事例や製品・商売の PR に使える。

○図書館にとっては、図書館のビジネス支援や図書館の活用法の PR になる。

B4 サイズ 1 枚⇒図書館事業のチラシや配布資料などの裏面に印刷して、機会あるごとに配布。

※元々県立図書館利用者のビジネスでの成功例を漫画化し、活用していた実績があった（沢田防災技研のシャッターガード開発での成功例）。

○漫画の作成を依頼している「ラ・コミック」は、全国の若手漫画家のネットワークで、仕事受注の窓口のベンチャー企業である。内容にあった希望のタッチの漫画（漫画家）を選べることで利用しやすい。この企業の情報自体も、図書館職員が他機関との連携事業の際の情報ネットワークで得た。

iii PR・広報の仕方

○募集チラシ（1万枚作成）を都道府県立図書館、政令指定都市の図書館に配布。

○図書館総合展等図書館関係のイベントでチラシを配布、説明。

○県立図書館ホームページに掲載。

○県立図書館メールマガジン（登録者約 1000 人）で配信。

○ビジネス支援図書館推進協議会（全国で約 200 図書館が加盟、個人会員）のメーリングリストで配信。

○県立図書館主催事業、館外の会議等でチラシを配布、説明。

募集チラシ⇒
県立図書館で既に利用していた
「(株) 沢田防災技研」の漫画の
一部を利用して作成

iv 応募状況

11 件 12 例—全国から図書館をビジネス・経営・ものづくり等で活用した事例が集まった。

※自館でビジネス支援事業に積極的に取り組んでいると宣言している図書館とその利用者が多かった。

⇒ビジネス支援の成果が確実に上がっている証明になった。

【取り組みのヒント】

埋もれている事例の発掘は、図書館職員が利用者と日頃からコミュニケーションを取っていないとなかなかできない。この「図書館を活用した“夢実現”大賞」の存在を全国の図書館利用者を知ってもらうこと自体も、地元の図書館職員からの声かけがキーポイントであった。

Ⅴ 審査会

選考委員会委員により、新規性、社会への貢献度、図書館の活用度の3つの審査基準に沿って審査し、合計得点の高い順に最優秀賞1事例、優秀賞2事例を決定した。

<審査結果と応募状況一覧>

ア. 最優秀賞

応募者	地域	推薦図書館	概要
石川慶蔵 (佐賀ダンボール商会)	佐賀県有田町	伊万里市民図書館	有田焼万華鏡、有田焼万年筆の開発と新市場の創造

イ. 優秀賞

応募者	地域	推薦図書館	概要
中山善晴	熊本県熊本市	熊本県立図書館	遠隔画像診断事業で大学・他企業との連携に成功
岩井昭雄	福岡県福岡市	福岡県立図書館	PCB分解、燃料油の乳化処理で特許取得

ウ. 優良賞

応募者	地域	推薦図書館	概要
三好和也	東京都新宿区	角筈図書館	生け花の道具店を開店
今村志穂	静岡県静岡市	—	文筆業を起業
谷川大致	奈良県奈良市	石垣市立図書館 沖縄県立図書館 奈良県立図書館	初心者用三味線楽譜教本を作成
金関正弘	香川県高松市	香川県立図書館	インターネット・ラボラトリーを開設
鎌田奈緒子	秋田県秋田市	秋田県立図書館	著書の出版と、図書館での架蔵
太田三郎	岡山県津山市	津山市立図書館	資料を素材にしてに芸術作品を創造
芳賀美和	栃木県小山市	小山市立図書館	雑貨・アロマサロンを開店
水野達信 (敷島屋)	静岡県浜松市	金谷図書館	新商品のネーミングを検討

最優秀賞のサクセスストーリー

有田焼万華鏡を開発する際の図書館の活用法が描かれている

応募者の企業PRになる

図書館のビジネス支援のPRになる

vi 今後の普及方法

- PR用広報紙を作成（タブロイド判・15000枚）し、受賞者に配布する他、全国図書館大会及び図書館総合展等で広報資料として配布予定。
- 鳥取県内の図書館や県立図書館主催事業等で配布予定。
- 完成した漫画は、B1判に拡大し、全国図書館大会、図書館総合展、産学官連携推進会議等の会場に展示する予定。
- 鳥取県立図書館、ビジネス支援図書館推進協議会のホームページやメールマガジン等により広報予定。

②その他の関連事業

i 団塊の世代「夢実現」応援講座

3回×2会場（県立図書館と県内の市町村立図書館）で実施し、企画は県立図書館が行い、同じ内容を県内の市町村立図書館を会場に実施する方式で行っている。また、必ず図書館職員が図書館の活用法について説明する時間を設けている。

第1回

テーマ：「主婦コミュニティを活用」

講師：株式会社ハー・ストーリィ代表取締役副社長（広島県在住）

（10万人の主婦をネットワークして新しいビジネスモデルを確立）

対象：退職を控えている団塊世代の人、すでに退職した人

会場：県立図書館（参加者21名）、倉吉市立図書館（参加者33名）

第2回

テーマ：「鳥取の梨づくりを支える袋作りにかける夢」

講師：日本農業資材株式会社代表取締役（鳥取県在住）

（労働力の軽減、病害虫対策など、梨作りの裏側を支える技術開発）

対象：退職を控えている団塊世代の人、すでに退職した人

会場：県立図書館（参加者15名）、倉吉市立図書館（参加者30名）

第3回 ※鳥取商工会議所、とっとり県民カレッジとの連携事業

テーマ：「農業は黄金のスマールビジネス～経営の視点から考える農業と地域資源の活用～」

講師：葡萄園スギヤマ経営者（宮崎県在住）

（外資系サラリーマンから専業農家へ転職）

対象：商工連携・農商工連携に興味のある商工業者、農業者、農業での起業を考えている人

会場：県立図書館（参加者108名）、琴浦町図書館（一般市民参加者90名）

【工夫のポイント】

- 講師の講演前に図書館職員が図書館の利用法を説明する時間を設定 ⇒参加者への図書館活用法の啓発
- 同じ内容を市町村立図書館でも開催 ⇒市町村立図書館へのビジネス支援の普及啓発
- ★図書館は読み物を借りるだけでなく、くらしに役立つ情報を得られる場所だという図書館のイメージの転換戦略がねらいである。

ii ビジネス支援コーナー

ビジネス支援コーナーは、図書館全体から見たコーナーのレイアウトや収集資料の種類・内容など、細かい配慮をして設置している。

【工夫のポイント】

- 図書館の入口近くの目立つ場所に「ビジネス支援コーナー」を設置
⇒図書館が仕事にも役立つことを前面に出しPRしている。
- ビジネスヒント！調査コーナーに業種ごとの組合・協会の機関誌・会報を収集し設置
⇒その業界ごとの専門的な統計等が掲載されていて、貴重な資料になっている。
- チラシ全体が見えるパンフレットラックを採用
⇒チラシの上部だけしか見えないものだと重要な情報を見逃すおそれがある。

<入口付近に設置されたビジネス支援コーナー>

雑誌コーナー



パンフレット・チラシコーナー



新刊図書コーナー



パンフレット・チラシの全体が見えるようにしている

ビジネス関連ではその他に、商用データベース、新聞情報、地方経済情報のコーナーがある。

<ビジネスヒント！調査コーナー>

全国から収集した業種ごとの組合・協会の機関誌・会報



一般のビジネス関連図書



iii 法情報検索マップ

「くらしに役立つ図書館推進事業」において、「県民のための健康情報サービス委員会・法情報サービス委員会の設置と運営」として施策に位置づけられている法情報サービス委員会により、テーマ別に多種類の「法情報検索マップ」が作成され、配布されている。

図書館外の通路部分に設置された

「法情報検索マップ」のパンフレット架



図書館利用者以外にも図書館がくらしや
ビジネス支援を行っていることをPRしている

くらしの困りごとと支援という観点で見ると、関連図書・資料の分類が多方面にわたるため、利用者が探しきれないという状況が起こる。また、プライバシーに関わることなので、図書館職員から直接レファレンスを受けにくいという問題もある。そこで年金問題、離婚、いじめ、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、マスメディアバイオレンスなどのテーマ別に、関連図書・資料のリストを作成した。さらにその関連図書・資料が館内のどこに配置されているかを示す「館内マップ」と、そのテーマに関連する県内の相談窓口の案内も掲載し、情報提供に努めている。

法情報検索マップの例 「セクシャルハラスメント」編 B5サイズ4ページ

表紙部分

中ページ部分

テーマに関連する図書リスト

県内の相談窓口の一覧

【工夫のポイント】

- 問題のテーマ別に作成
⇒問題を抱えている人にとっては、情報検索の方法を知る貴重なツールになっている。
- 図書分類のカテゴリごとに図書リストを作成
⇒館内マップの位置と照合できるようになっている。
- そのテーマに関連する県内の相談窓口の案内を掲載



裏面部分 館内マップ

(6) 事業の成果・効果と事業実施後の取り組み

①事業の成果・効果

事業の主な成果・効果は次のとおりである。

i 図書館がビジネスに役立つことを実証できた

○全国の図書館を活用したビジネスの成功事例を収集し、11件12例を初めてまとめて公開できた。そのことにより図書館がビジネスに役立つことを実証できた。

ii マスメディアに取り上げられ図書館がくらしに役立つことをRPできた

○「図書館を活用した“夢実現”大賞」については、副賞が漫画ということで取材が多く、日本海新聞地方版、朝日新聞地方版、読売新聞地方版に事業の告知や結果発表の記事が掲載され、ビジネス支援の取り組みについてアピールできた。

○県立図書館のビジネス支援に関しての取り組み全般に関しては、過去にNHK朝のニュース（中国圏）、ニュースウォッチナイン、ケーブルテレビ日本海、読売新聞鳥取版などで取り上げられ、それを見た県内外の市民等からの問い合わせがあり、かなり反響があった。

iii 図書館のイメージ変革につながった

○受賞3事例がわかりやすく漫画化されたことで、図書館利用の「趣味・娯楽」という旧来のイメージを「課題解決に応え、仕事や生活に役立つ」という新しいイメージへ変化させ、課題を抱える潜在的な利用者に図書館利用のきっかけをつくれた。

○図書館で得られる情報が仕事に役立つことが認知され、外部機関から図書館活用法についてのレクチャーなど講師依頼が増加した。

例：県建築士事務所協会—県立図書館の情報検索・活用法

県男女共同参画センター—女性審議会委員のためのセミナー「情報の洪水から欲しい情報を見つけるコツ」

②事業実施後の取り組み

※平成20年度委託事業のため、省略。

（7）課題と今後の展望

①課題

主な課題としては次のことが挙げられる。

i 図書館の情報提供が資料提供に偏りがちである

図書館のくらし・ビジネス支援は、個人や企業の課題解決が最終目的なので、図書資料だけではなく、課題解決やそれに向けてのヒントを提供することが大切であり、関係機関やキーパーソンを紹介することも重要な役割である。そのためには、図書館職員が積極的に外に出て、様々な事業や会に参加し、いろんな人と交流する中で、キーパーソンを見つけることも必要である。

※レフェラルサービス（利用者が必要とする情報の情報源となりうる人もしくは機関・組織を知らせること）の充実が必要である。

ii 図書館の活用法を外に出て積極的に「営業」する必要性と職員の意識改革

図書館内にこもって、カウンター業務だけに追われていては人脈や発想は広がらない。県内市町村立図書館と様々な事業連携を通して、市町村立図書館職員の意識を啓発していくことが課題である。

※県立図書館では、年に約100日は外部機関の事業とのタイアップのために出かけていく。県立図書館職員の意識も5年前とすごく変化した。外に出て行き、いろんな人と交流することにより、「こういう人がいる」という出会いや、「こんなことを喜んでもらえた」という小さな成功体験の積み重ねが意識を変えていった。

※県の産業支援フェアでは、企業の商品が並ぶブースに図書館もブースを出し、図書館がビジネス支援をしていることを外に向けて「営業」している。

②今後の展望

「図書館を活用して“夢を実現”しました大賞」については、副賞を出して公募することはできないが、引き続き全国から事例を収集し、県立図書館のホームページに掲載していく予定である。漫画化された事例に関しては、ポスター・パネルにして、様々な機会・場所で展示していきたい。

また、「くらしに役立つ図書館推進事業」については、今後も様々なアイデア・工夫を取り入れ、積極的に推進していく予定である。